HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	東北地方太平洋沖から採集された3種の魚類
Author(s)	高橋, 聖史; TAKAHASHI, Masafumi; 今村, 央 他
Citation	北海道大学水産科学研究彙報, 54(1-2), 17-20
Issue Date	2003-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/21979
Type	departmental bulletin paper
File Information	54(1_2)_P17-20.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北 大 水 産 彙 報
54(1/2), 17-20, 2003.

東北地方太平洋沖から採集された3種の魚類

高橋　聖史[1)]・今村　　央[2)]・仲谷　一宏[1)]

Records of Three Fish Species from the Western Pacific of Northern Japan (Pisces : Teleostei)

Masafumi TAKAHASHI, Hisashi IMAMURA and Kazuhiro NAKAYA

Abstract

A morid *Laemonema nana* Taki, 1953, a trachichthyid *Hoplostethus japonicus* Hilgendorf, 1879 and a scorpaenid *Scorpaena neglecta* (Temminck and Schlegel, 1843) were collected from the western North Pacific off Iwate and Aomori Prefectures, nothern Japan. The former two species had been reported only from southern Japan ; thus present report represents the first records of *L. nana* and *H. japonicus* from northern Japan and these are also their northern-most records. *Scorpaena. neglecta* has sometimes been reported from northern Japan, but they were mostly in the list of the fishes. This study gives a reliable record of *S. neglecta* from northern Japan, based on a specimen.

Key words : *Laemonema nana, Hoplostethus japonicus, Scorpaena neglecta*, First and northern-most records, Hachinohe, Aomori Prefecture, Miyako, Iwate Prefecture, Northern Japan

2002年6月に岩手県から青森県にいたる北西太平洋沿岸の水深40-460 mにおいて，東北区水産研究所八戸支所によるマダラおよびカレイ類の分布調査が実施された。この調査で採集された魚類標本の中に，チゴダラ科Moridaeイトヒキダラ属ヒメダラ *Laemonema nana* Taki, 1953，ヒウチダイ科Trachichthyidaeヒウチダイ属ヒウチダイ *Hoplostethos japonicus* Hilgendorf, 1879およびフサカサゴ科Scorpaenidaeフサカサゴ属イズカサゴ *Scorpaena neglecta* (Temminck and Schlegel, 1843) と査定される標本が確認された。ヒメダラとヒウチダイはこれまで北日本から報告されておらず，本研究ではこれら2種を本海域からの初記録および分布の北限記録として報告する。またイズカサゴは本州中部以南に分布するとされることが多いが (例えば中坊, 2000b), 新潟県，青森県などからも記録されている (塩垣, 1982 ; 本間, 1992)。しかし，これらの報告は目録的であったり，標本の所在が明記されていなかった。本研究では，イズカサゴを標本に基づいて記載するとともに，北日本からの確実な記録として報告する。

計数計測方法はHubbs and Lagler (1958) に従った。観察した個体は北海道大学大学院水産科学研究科 (HUMZ) に魚類標本として登録されている。

本研究を進めるにあたり，ご指導いただいた北海道大学大学院水産科学研究科の矢部　衛助教授，および標本を送付してくださった独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所八戸支所の北川大二博士および成松庸二博士，同研究所の調査船若鷹丸の乗組員の方々に謹んで感謝の意を表する。

ヒメダラ
Laemonema nana Taki, 1953
(Fig. 1)

材料

HUMZ 179773，標準体長50.1 mm，北緯40度53.78分，東経141度27.87分-北緯 40度55.06分 東経141度26.87分，水深 75-80m，八戸沖，着底トロール，2002年5月30日，若鷹丸採集。

記載

第1背鰭鰭条数5, 第2背鰭鰭条数48, 臀鰭鰭条数49, 胸鰭鰭条数22，腹鰭鰭条数2。

体長に対する各部位の百分率 (%) : 頭長23.8, 体高17.2, 体幅12.5, 吻長5.7, 眼窩径6.9, 眼後長12.1, 両眼間隔5.1, 上顎長9.9, 下顎先端のひげの長さ4.8, 胸鰭長17.2, 腹鰭長15.8，背鰭基底長74.9，臀鰭基底長57.4，尾柄長4.0，尾柄高3.2。

体は側扁し，延長する。上顎は下顎より前方に突出する。下顎に1本のひげを有する。側線は第2背鰭前部下方で急

1) 北海道大学大学院水産科学研究科多様性生物学講座
(*Laboratory of Marine Biodiversity, Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University*)
2) 北海道大学総合博物館
(*The Hokkaido University Museum*)

Fig. 1. *Laemonema nana*, HUMZ 179773, 50.1 mm SL, from off Hachinohe, Pacific coast of Aomori Pref.

激に下降する。腹鰭は喉位。2本の腹鰭軟条は糸状に伸長し，根元から約2/3でそれぞれ分離する。背鰭は2基あり，第2背鰭に欠刻はない。背鰭と臀鰭は尾鰭と連続しない。

カラー写真に基づく生鮮時の体色は白色で，胸鰭は薄橙色を呈する。10%ホルマリンで固定後に50%イソプロピルアルコールに保存した標本は一様に淡白色である。

分布

本種は八戸沖（本研究），および日本海，瀬戸内海，土佐湾などの南日本沿岸（岡村，1988；遠藤，1997；中坊，2000a）に分布する。

備考

本標本は背鰭が2基で第2背鰭に欠刻がないこと，腹鰭は糸状に伸長し2軟条であることなどからチゴダラ科のイトヒキダラ属 *Laemonema* に属する（松原，1955；中坊，2000a）。また，本標本は第1背鰭が小さく第2背鰭とほぼ同じ高さで第1軟条は糸状に伸長しないこと，臀鰭起部は第2背鰭起部下のやや後方に位置することなどから，本属魚類のヒメダラとイトヒキダラ *L. longipes* Schmidt に類似する。さらに本標本は下顎が上顎よりも前に突出しないこと，腹鰭軟条が根元で分離しないこと，下顎に1本のひげをもつこと，側線が第2背鰭前部下方で急激に下降することなどの特徴をもち，これらの形質はヒメダラとよく一致することから（松原，1955；中坊，2000a），本研究では本標本をヒメダラと査定した。

本種はこれまで南日本の沿岸域のみから報告されており，八戸沖での分布が確認されたのは今回が初めてである。よって，本研究はヒメダラの北日本太平洋側からの初記録および北限記録として報告する。

ヒウチダイ
Hoplostethus japonicus Hilgendorf, 1879
(Fig. 2)

材料

HUMZ 179712，標準体長244.0 mm，北緯39度45.21分，東経142度16.09分-北緯39度43.51分東経142度16.69分，水深 346-361m，宮古沖，着底トロール，若鷹丸採集，2002年6月1日。

記載

背鰭鰭条数 VI，13，臀鰭鰭条数 III，10，胸鰭鰭条数 17，腹鰭鰭条数 I，6，鰓耙数 6＋1＋13＝20。

体長に対する各部位の百分率（%）：頭長 40.4，体高 51.8，体幅 14.0，吻長 8.9，眼窩径 11.1，眼後長 21.0，両眼間隔13.0，上顎長 26.6，胸鰭長 34.3，腹鰭長 21.7，背鰭基底長 36.7，臀鰭基底長 17.4，尾柄長 21.9，尾柄高 13.9。

主鰓蓋骨は関節部から放射状の隆起をもつが棘はない。前鰓蓋骨隅角部の棘は三角形で強く，胸鰭起部にわずかに達しない。鰓耙は鋭く尖る。上顎後端は眼窩後縁に達する。両顎には非常に細かい剛毛状歯がある。前鋤骨に歯がない。肛門の後方の腹縁に14個の強大な稜鱗がある。背鰭は鰓孔後縁の上方から始まる。背鰭，臀鰭，腹鰭の棘は太く，すじがある。背鰭棘は後方のものほど長い。

カラー写真に基づく生鮮時の体色は暗褐色で，下方は銀白色を呈する。各鰭は淡紅色で，鰓蓋皮弁，口腔内，腹膜および肛門は漆黒である。10%ホルマリンで固定後に50%イソプロピルアルコールに保存した標本は一様に褐色で，鰓蓋皮弁，口腔内，腹膜および肛門は漆黒を呈する。

分布

本種は宮古沖（本研究）および東京以南の太平洋（山川，1984；清水，1997；林，2000）に分布する。

備考

本標本は背鰭棘が6本で後方の棘ほど長いこと，肛門が臀鰭の直前にあること，肛門前方の腹縁に強い稜鱗があること，側線鱗が著しく大きく盾状であることでヒウチダイ属 *Hoplostethus* に属する（松原，1955；林，2000）。山川（1982，1988），清水（1997），林（2000）などによれば日本近海には本属魚類としてヒウチダイとマルヒウチダイ *Hoplostethus crassipinna* Kotlyar が分布する。林（2000）は，ヒウチダイは尾鰭縁辺部に黒色帯をもつことでマルヒウチダ

Fig. 2. *Hoplostethus japonicus*, HUMZ 179712, 244.0 mm SL, from off Miyako, Pacific coast of Iwate Pref.

イと区別されるとしたが，本標本では尾鰭後部が破損しているためこの形質では査定できない。一方，両種はこの形質以外にも，前鋤骨歯の有無，稜鱗数などで識別可能である（例えば山川，1982など）。本標本は前鋤骨に歯がないこと，稜鱗数が14個と多いことなどで，ヒウチダイとよく一致したため（マルヒウチダイでは前鋤骨歯があり稜鱗数は11-12）（山川，1982），本研究ではヒウチダイと査定した。

本種はこれまで東京以南の深海に生息するとされてきたが（林，2000など），本研究で初めて本種を宮古沖から確認した。したがって本研究はヒウチダイの北日本からの初記録および北限記録となる。

イズカサゴ
Scorpaena neglecta Temminck and Schlegel, 1843
(Fig. 3)

材料

HUMZ 179774，標準体長76.2 mm，北緯40度53.78分，東経141度27.87分-北緯40度55.06分東経141度26.87分，水深 75-80 m，八戸沖，着底トロール，2002年6月4日，若鷹丸採集。

記載

背鰭鰭条数 XII，10；臀鰭鰭条数 III，6；胸鰭鰭条数 20；腹鰭鰭条数 I，5；側線鱗数 24。

体長に対する各部位の百分率（%）：頭長 44.4，体高 36.0，体幅 23.4，吻長 12.6，眼窩径 9.3，眼後長 21.1，両眼間隔7.6，上顎長 22.0，胸鰭長 22.6，腹鰭長 23.4，背鰭基底長 58.0，最長背鰭棘長 17.8，尾柄長 16.7，尾柄高 10.2。

体は側扁する。頭部には多くの鋭い棘を持ち，涙骨下縁には3棘あり，下縁後部の棘は下向する。口蓋骨に歯をもつ。背鰭は1基で，最長棘は最長軟条とほぼ等しい。腋部には皮弁がある。腹鰭前方域は無鱗。

カラー写真に基づく生鮮時の体色は鮮紅色で，体及び各鰭は大小多数の暗褐色の斑紋を有する。10%ホルマリンで固定後に50%イソプロピルアルコールに保存した標本の体色は褐色で，体及び各鰭は大小の暗褐色の斑紋を有する。

分布

本種は本州中部以南の日本沿岸，朝鮮，黄海，東シナ海と南シナ海の中国沿岸に分布する他（矢頭，1985；清水，1988；石田，1997；中坊，2000b），新潟県および青森県の日本海側，三厩沖，佐井沖，白糠沖および鮫沖からも報告されている（本間，1992；塩垣，1982）。

備考

本標本は，涙骨下縁に3本の棘をもつこと，胸鰭基底付近が無鱗であるなどからフサカサゴ属 *Scorpaena* のイズカサゴ，フサカサゴ *S. onaria* Jordan and Snyder およびコクチフサカサゴ *S. miostoma* Günther に類似するが，涙骨下縁後部の棘が下向する，胸鰭腋部に皮弁がある，腹鰭前方域が無鱗である，胸鰭軟条が20本であるなどの特徴から，本研究ではイズカサゴと同定した（矢頭，1985；中坊，2000b）。

本種は多くの著者によって南日本での分布が報告されているが（例えば矢頭，1985；清水，1988；石田，1997），新潟県（本間，1992）や青森県の各所（塩垣，1982）からも記

Fig. 3. *Scorpaena neglecta*, HUMZ 179774, 76.2 mm SL, from off Hachinohe, Pacific coast of Aomori Pref.

録されている。本研究でも八戸市沖でのイズカサゴの分布が確認された。

文　　献

遠藤広光 (1997). チゴダラ科. p. 131, 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監修), 日本の海水魚。山と渓谷社, 東京.

林 公義 (2000). ヒウチダイ科. pp. 500-501, 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索. 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.

本間義治 (1992). 新潟県海の魚類図鑑, 新潟日報事業者, 新潟.

Hubbs C.L. and Lagler K.F. (1958). Fishes of the Great Lakes Region. *Bull. Cranbrook Inst. Sci.*, (**26**), i-xv, 1-213, pls. 1-44.

松原喜代松 (1955). 魚類の形態と検索, 第2版, 石崎書店, 東京.

中坊徹次 (2000a). チゴダラ科. pp. 408-412, 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索. 全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.

中坊徹次 (2000b). フサカサゴ科. pp. 565-595, 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索。全種の同定. 第2版. 東海大学出版会, 東京.

石田 実 (1997). フサカサゴ科. p. 196, 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監修), 日本の海水魚. 山と渓谷社, 東京.

岡村 収 (1988). チゴダラ科. p. 90, pl. 344-A, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 東京.

清水 長 (1988). フサカサゴ科. p. 300, pl. 280-A, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 東京.

清水 長 (1997). ヒウチダイ科. p. 157, 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監修), 日本の海水魚. 山と渓谷社, 東京.

塩垣 優 (1982). 青森県産魚類目録. 青森県水産試験場報告 (1982), pp. 1-36.

矢頭卓児 (1985). フサカサゴ科. pp. 562-563, 岡村 収 (編), 沖縄舟状海盆並びに周辺海域の魚類 II. 日本水産資源保護協会, 東京.

山川 武 (1982). ヒウチダイ科. pp. 202-207, 岡村 収・尼岡邦夫・三谷文夫 (編), 九州-パラオ海嶺並びに土佐湾の魚類. 日本水産資源保護協会, 東京.

山川 武 (1988). ヒウチダイ科. p. 107, pl. 94-D, 益田一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), 日本産魚類大図鑑. 第2版. 東海大学出版会, 東京.